

「生きるってどういうこと」

川澄 久仁夫

生きるってどういうこと。このテーマは（真宗大谷派における）宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要における、わが岐阜教区（岐阜県の中部・東南部を管轄）の教化テーマであります。これは一見すると簡単そうにも思えますが、よくよく考えると大変難しく、かつ重要なテーマであります。そもそも生きるということについて、一般的にはどのように捉えられているのでしょうか。

例えば、生まれた意味とは？ 生きる目的とは？ どのように生きたいのか？ 等々、これはなかなか難問でありますし、このようなことを考えて生きている人はあまりないかとも思われます。

しかし、親鸞聖人を宗祖と仰ぐ私たち真宗門徒にとって「生きる」ということは最大の問題であります。それと言うのも生きるということが明らかになること、そのことが真宗門徒であることを意味し決定すると言っても過言ではないからです。このことを的確に言い表したのが「生まれた意義と生きる喜びを見つけよう」という言葉であります。この言葉の意味がハッキリしない限り、どれほど念仏申しても浮き草暮らしとなるのでしょうね。このことを蓮如上人の上に見ると、「後生の一大事」、「信をとれ」、「弥陀をたのめ」の言葉ですね。換言するならば、「あなた、念仏者として本当の意味で死が引き受けられますか」ということです。何故なら真に自ら生ききらなければ私の人生これでよかったと言えないからです。その意味で生きるということと、死が引き受けられるということは一緒のことでありましょう。それを親鸞聖人は「無碍の一道」と言われるのでしょう。

最後に、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を縁に、宗祖より御同行と呼ばれる様な門徒になる道を共に求めていくことをお願いいたします。